

医芸俳壇



長野 有泉 七種

鷹ひとつ遠のく気流捉へたり  
野祠の荒寥として神在らず  
遠き日のことなど落葉ふみにけり  
あらたまの確かめてわが齢かな  
輪飾にひと世の禍福とほのけり

東京 篠田那珈

老杉を囲み若葉が層を成す  
タンテとはばあさんの称日向ボコ  
山茶花は垣根の主役伊豆の旅  
トンネルを出れば大洋石路の花  
マイヨールの裸像仰ぎぬ師走旅

青森 秋霧 朝光

会いたくて迎え火高くたかく焚く  
灯を消して戻りねぶたの一人笛  
胸に棲む人多かりき花野経  
古き歌ゆるく流れて夜長かな  
彫りすすむ仏師夜長を余さざる

静岡 岩本 漂人

どの道をとるもカツコウホトトギス  
哲字の道ヤブサメの語りかけ  
タンチョウに一声かけて飼育人  
灯台に続く道なりキセキレイ  
ねぎ畑ツバメチドリが来たという

新潟 中村 雄彦

一つ剥く又一つ剥く初林檎  
道の端行く手を阻む焚火かな  
野焼き跡するめの如く爛れをり  
胸張って車椅子乗る秋の晴れ  
大しげやサーファー沖にも見立たらす

千葉 秋葉 琢磨

寒梅や清水求め畦走る  
開業し四十年たち年迎ふ  
死の知らせ多きことかな去年今年  
三日には新婚夫妻訪れて  
小鳥来て庭に餌をまき楽しみて

東京 小南 丁字

盛り上がる連勝白鵬白い月  
名月の添うスカイツリー暮れ渡る  
世を映す百花繚乱案山子展  
ハブ空港手を振る秋雨一番機  
晩秋の書展群がる準大賞

長野 檜本 勝彦

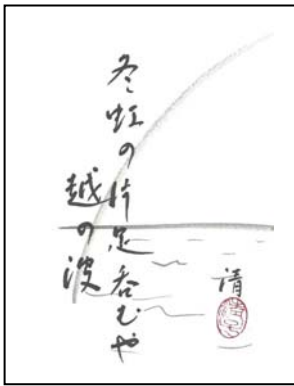
おにぎりを作りて仲間菊日和  
冠雪の穂高岳に向ひ山湖照る  
冬鴉うすき闇負ひ喋りつぐ  
冬夕焼天守輝き周航歌  
山粧ふ小学唱歌堂に満つ

東京 初芝 澄雄

箒草籬竹の傍に赤々と  
傍らに柚子一つ落ち小寒に  
青空や富士高々と多摩川に  
柚子の実の黄色く光る農家あり  
神宮の银杏並木は冬景色

兵庫 廣 辻 逸 郎

国立新美術館から乃木神社へ  
乃木坂のゴッホ・鍋島秋の展  
秋日避けベンチにしばしゴッホ鑑て  
秋晴や百年を経しレンガ塀  
秋天下名馬憩いしレンガ小屋  
秋日洩れ乃木の手温し孝子像



東京 福富 清子

青森 福士 盛大

冬木立隙間を抜けて音流る  
娘等の成人式や賑々し  
テレビではハワイ・沖縄雪深し  
雪女孫に話せど馬耳東風  
天窓の明るさ隠す今朝の雪

東京 福神 規子

手毬唄うたへば昭和遠くなる  
丸餅や丹波に古き句ともがら  
ふるさとの丸餅恋ひて父老いし  
着ふくれて無愛想とも違ふ顔  
たばこ吸ふ指が好きなり冬帽子

東京 福富 清子

山眠る誰が胸誰が子守唄に  
再開発隙間隙間の冬さるる  
辛口の捌きの句座や悴めり  
丹田を揺るがす故郷の雪起し  
煮凝りや計らひの無き母の味

青森 三上 忠英

今し方生まれし稚子初写真  
お年玉孫との絆深めけり  
死にもせず生かされている去年今年  
福笑い家を揺らしてをりにけり  
年金をこつこつ貯めてお年玉

東京 初木 秀徳

再入院また鶺鴒に訪はれけり  
深秋の入院棟に早や聖樹  
読書中いつしか失せし翹雲  
病友の退院聞く日菊日和  
手を振りつつ見返りしつづ落葉道

広島 渡辺 晋山

曼珠沙華生垣沿ひに燃え尽きぬ  
天高く馬刺し頂き酒うまし  
恐竜の化石探して年惜しむ  
風すさび白き聖夜が飛びゆきつ  
幕の内免許を見せに孫来る